

ネクタイ所有1人20〜30本 女性はネクタイ好き多い

（4頁より続く）



「だけど、収納が悩み。重なるネクタイは使わなくなっている。柴田「私も収納器具を考えて欲しい。」

一井のネクタイ、永井のネクタイ、坂井のネクタイ、藤原のネクタイ、柴田のネクタイ、右より上田氏、右は、真田段吉のラ

吉田「所有20〜30本は以前のアンケートでも平均値。1000本持つ柴田さんはどう買うの？」

柴田「デイズニートップとか、とにかく目についたら迷わず買う。先日も東映のショップでショツカートのネクタイを買った。」

吉田「白黒主体のフオーマルタイにオーダーあるの？」

藤原「オーダーじゃないけど水引柄のネクタイが売れている。社長には不祝儀のネクタイも造れといわれているが、まだ出来ていない。」

吉田「クールビズでも365日ネクタイの坂井さん、周りは？」

坂井「同僚でもノータイは増えて来ているが、私にとってネクタイをす

る事が仕事へのスイッチなので、今後も結ぶ。暑い事は暑い、逆にお客との会話ネタにもなるし。」

吉田「夜はどうしてるの？」

坂井「結んだまま。昔合コンで女性から、『ネクタイを緩める草が好き』といわれて、それから食事とかも結んだままに、モチないけど。」

吉田「柴田さんは？」

柴田「夜でも、地方でも結んだまま。私は『ネクタイ一本勝負』、相手の視線がネクタイへ行くようにしている。あと、同じスーツでもネクタイを替えれば違って見えるし。」

吉田「昔はサラリーマンの永井さんは？」

永井「200本くらいは持つ。時代でスーツのラベル幅などが変わ

るとネクタイも変わるとも使っているのは10本くらい。」

坂井「ネクタイ結ぶのがスイッチ」って言うていたがあれはわかる」

藤原「クールビズで、ネクタイを結ばない人が増えて、逆に結ぶ人は目立つ。」

逆に見立つから何を結ぶか考える人が増えてい

ると感じる。」

吉田「最後に、あなたにとってネクタイとはなんでしょうか？」

坂井「戦闘服仕事モードでの。」

永井「お洒落ツール。それと何故か女性はネクタイ好きな人が多い。」

藤原「コミュニケーションツール。」

柴田「名刺、友人の社長にもネクタイ好きがいて、いかに主張力あるか3本勝負とかしている。」